

Sinfonia

シンフォニア

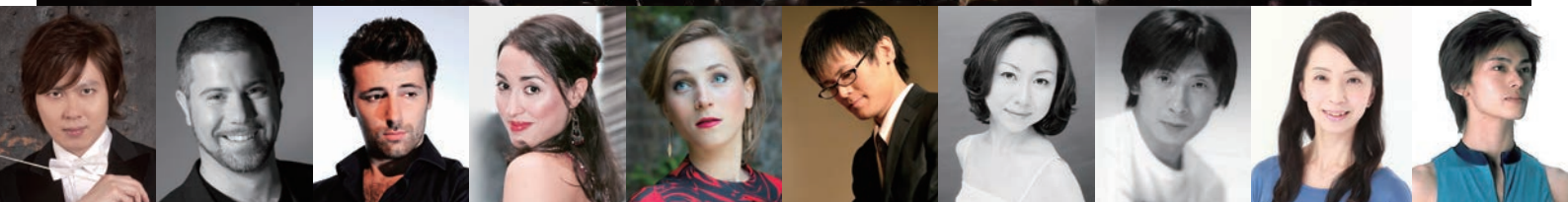
Close Up

大植英次 指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団
「シェエラザード」×「春の祭典」 インタビュー

日本センチュリー交響楽団×ザ・シンフォニーホール
ラフマニノフ×サン＝サーンス 2つの第3番 インタビュー

ほか

ザ・シンフォニーホール カウントダウンコンサート 2018-2019 & ニューイヤーコンサート 2019



- ザ・シンフォニーホール カウントダウンコンサート 2018-2019 & ニューイヤーコンサート 2019
- 大植英次 指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団「シェエラザード」×「春の祭典」 インタビュー
- ベルリンフィル ヴァイオリン・アンサンブル
- 3大協奏曲 2019～次世代を担う未来の巨匠たち～ インタビュー
- 日本センチュリー交響楽団×ザ・シンフォニーホール VOL.4 ラフマニノフ&サン＝サーンス 2つの第3番 インタビュー
- 古澤巖×ベルリンフィルハーモニー ヴィルトウオージのクリスマス インタビュー
- 関西紅白オペラ歌合戦 インタビュー
- 川井郁子 シンフォニック バレンタインコンサート ～シネマ・ファンタジー～ インタビュー
- 美しき日本のうた「秋の月」 インタビュー
- ザ・シンフォニーホール クリスマス オルガンコンサート 2018
- 大阪交響楽団 0歳児からの“光と映像で楽しむオーケストラ”Vol.13
エレーヌ・グリモー ピアノリサイタル
- 三浦一馬 キンテート クリスマス・スペシャル・ナイト
プロジェクトマッピング×パイプオルガン 超絶のオペラ座の怪人 リターンズ!!
ブルーノ＝レオナルド・ゲルバー ピアノリサイタル
- 長富彩ピアノリサイタル Vol.3 オール・ショパン・プログラム
思い出がいっぱい 珠玉のシネマ名曲 SELECTION VOL.5 荒庸子 チェロリサイタル 2019
The Symphony Hall×和太鼓松村組 春祭2019
ウィーン・サロン・オーケストラ ニューイヤーコンサート 2019
- The Symphony Hall Big Band Vol.13 ～Music Director 菊池寿子～ インタビュー
- ABCテレビ主催公演・イベント情報
- 日本センチュリー交響楽団
- welcome more musicians!音楽を愛する団体が集うザ・シンフォニーホール
- ホールトピックス
- 堀江政生のシンフォニア・アワーVol.29
- Concert Calender 2018.9～11

9月のSinfonia会員先行予約

- 先行予約:9月20日(木) 10:00AM～
- ※Sinfonia会員先行予約期間中は、電話・WEBのみのご予約となります。
- ※ザ・シンフォニー チケットセンター窓口、館内プレイガイドでの販売はございません。
- ※Sinfonia会員先行期間中にご予約されたチケットは、すべて郵送でのお届けとなります。
- 電話:ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
(10:00～18:00 火曜定休)
- WEB:http://www.symphonyhall.jp/

シンフォニア会員登録方法

シンフォニア会員にご登録いただけますと、先行予約のご利用、シンフォニアのお届け、メールマガジンの受け取り等お得な特典をご利用いただけます。ぜひご登録ください!

▼ WEBサイトからのご登録

ザ・シンフォニーホール ホームページ

http://www.symphonyhall.jp/ からご登録下さい。

▼ ハガキでのご登録

定型ハガキに右記の情報を記載いただき、62円切手を貼付の上、ポストに投函ください。

※手続き完了後、約2週間で会員番号のお知らせと、シンフォニア最新号をお送り致します。

※携帯端末のメールアドレスをご登録いただく場合、受信設定をしている方はメールが受信できない場合がございます。[@symphonyhall.jp]をドメイン指定受信して下さい。指定方法はご利用の携帯電話会社にお問い合わせください。

【お客様の個人情報の取り扱いについて】株式会社ザ・シンフォニーホールでは、次に掲げた内容にしたがって、個人情報の保護に努めてまいります。○お客様からご提供いただいた個人情報については、個人情報に関する法令、規範に厳格に管理いたします。○お客様からいただいた個人情報は、以下の目的のみに使用し、それ以外には一切使用いたしません。(1)シンフォニア会員様への情報誌「シンフォニア」および関連する印刷物の発送(2)ザ・シンフォニーホールで開催する事業を企画する印刷物の発送(3)カルテルと協賛の事業、サービスの開発・改善を目的とした調査・研究のためのアンケートの送付・分析・データ集積(5)チケット予約販売に伴う、ご本人確認およびご連絡(6)株式会社ザ・シンフォニーホールに関するご案内の発送○個人情報の提供はご自身の意思でご本人様が行うものといたします。○お客様の個人情報を、適正かつ迅速に処理するため、その作業を外部の企業に委託して行うことがあります。その場合、委託先において個人情報安全に管理されるよう適切に監督します。

表紙の一枚「ザ・シンフォニーホール カウントダウンコンサート 2018-2019 & ニューイヤーコンサート 2019」

※記載内容は変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

The Symphony Hall

またとない豪華な共演。
めくるめく贅沢な瞬間が待っている!

イザベル・ファウスト

Isabelle Faust

ダニエルは偉大な指揮者ですが、
いかなるときもさらなる高みを目指していて、
音楽に対する誠実さや聡明さには、
心から尊敬の念を抱いています。
彼と一緒にステージに立つことができるのは、
この上ない特権なのです。
また、パリ管弦楽団の皆さんはとても力強く、
個性にあふれています。
毎回の共演が楽しくてしかたありません。

MIKIMOTO
第59回 日本赤十字社
献血チャリティ・コンサート

ダニエル・ハーディング指揮
パリ管弦楽団

[指揮] ダニエル・ハーディング [ヴァイオリン] イザベル・ファウスト [管弦楽] パリ管弦楽団

ベルク:ヴァイオリン協奏曲/マーラー:交響曲第1番 二長調「巨人」

2018.12/19(水) 7:00PM

S 19,440円 A 16,200円 B 12,960円 C 売切 プレミアム 25,920円(税込)

[ご予約・お問合せ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

[共催]公益財団法人ソニー音楽財団

発売中

©William Beaucardet



パリ管弦楽団
Orchestre de Paris

ダニエル・ハーディング
Daniel Harding



©Julian-Hargreaves

ザ・シンフォニーホール カウントダウンコンサート 2018-2019 & ニューイヤーコンサート 2019

年末年始は今年もザ・シンフォニーホールで!
特別な日にふさわしい豪華な音と舞の宴!!



大晦日・元旦はロビーも豪華なお正月仕様!今年も祝い酒をご用意!

※写真はカウントダウンコンサート2017-2018の様子です。

ザ・シンフォニーホール カウントダウンコンサート 2018-2019

2018.12/31(月) 10:00PM ※18歳未満の方は保護者の同伴が必要です。

ザ・シンフォニーホール ニューイヤーコンサート 2019

2019.1/1(火・祝) 3:00PM

モーツァルト: 歌劇「フィガロの結婚」序曲 / モーツァルト: 歌劇「魔笛」より「わしは鳥刺し男でござる」
「ハバハバハバハバゲナ!」「何という美しい絵姿だろう」「地獄の報復が私の胸中で煮えたり」
／ビゼー: 歌劇「カルメン」より「前奏曲」「ハバネラ」「闘牛士の歌」／ロイド・ウェバー: 「オペラ座の怪人」より「序曲」「オール・アイアスク・オブ・ユー」／ロッシーニ: 歌劇「セビリアの理髪師」より「今の歌声は」
／プッチーニ: 歌劇「トゥーランドット」より「誰も寝てはならぬ」／チャイコフスキー: バレエ音楽「白鳥の湖」より「ワルツ」「ロシアの踊り」「スペインの踊り」「マズルカ」「終曲」／ヴェルディ: 歌劇「椿姫」より「乾杯の歌」ほか

SS 10,800円※ S 8,640円 A 6,480円 B 4,320円 (税込)

※SS席はスペシャル特典あり!

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

[協力] 宝酒造株式会社

先行予約: 9/20(木) 一般発売: 9/23(日)

[オーケストラ] The Symphony Orchestra

[司会] 堀江政生(朝日放送テレビアナウンサー)



ソプラノ
セリーヌ・ミロン



メゾソプラノ
アリマ・マンディ



テノール
ジェレミー・シュツ



バリトン
フィリップ・プロカール



オルガン
富田一樹



バレエ
松田敏子



バレエ
小嶋直也



バレエ
武藤天華



バレエ
竹中優花



指揮
ジョシュア・タン

Performer 出演者

一年の締めくくりと新年の門出を、美しく心浮き立つ音楽で彩る。ウィーンやベルリンをはじめとした海外の音楽都市では、こうした素晴らしい伝統が脈々と受け継がれている。ザ・シンフォニーホールでも約15年前までは行われていたが、その後、長らく途絶えていた年末年始のクラシック演奏会。だが、関西圏でも欧米のように気軽に、本場のステージを味わってみたい!!というテーマのもと、2015年から復活した。今回で4度目となるが、年々、出演者やプログラムが充実。人気を著実に高めていることは周知の通りだろう。管弦楽曲だけでなく声楽やバレエも楽しめる、盛り沢山な内容の当公演。今回も芸術の都・パリから4人の精鋭歌手を招き、モーツァルト「魔笛」の傑作アリア、プッチーニ「誰も寝てはならぬ」ヴェルディ「乾杯の歌」などを華々しく歌い上げる。中でも注目は、2年ぶりの登場となるフィリップ・プロカール。アルメル・オペラ・フェスティヴァル(ハンガリー)のコンクール部門で12年度最優秀男声歌手に輝き、現在はフランス大統領の公式晩餐会にも定期的に出演する若き名歌手だ。そんな彼の当ホールにおける歌唱に期待が高まる。

バレエは、チャイコフスキー「白鳥の湖」の名場面などを上演予定で、優雅で洗練された踊りを存分に楽しめそう。今回は、日本を代表するバレエダンサーの一人、小嶋直也も出演。1994年に名門アメリカン・バレエ・シアターと日本人初の出演契約を結び、ブルガリアヴァルナ国際バレエコンクールでも日本人初の金賞を受賞。新国立劇場バレエ団で数々の作品に主演してきた彼をはじめとした、切れ、鋭いダンスや安定したスピード感にご注目。

また、当ホールが誇るスイス・クリーン社製のパイプオルガンを使ったゴージャスなパフォーマンスも。しかもソリストが、16年度のパッハ国際コンクール・オルガン部門で日本人初優勝を飾ったことで知られる富田一樹だというから嬉しい。彼が得意とする美しさと情熱を備えたハーモニーは、年末年始の華やいだ雰囲気にもよく映えることだろう。

そして、こうした豪華で個性的な顔ぶれを統べるのが、シンガポール出身の俊才指揮者ジョシュア・タン。デュトワ、ジンマン、マズアといった錚々たる巨匠から薫陶を受け、若くしてオペラ指揮の経験も豊富な実力派だ。今回の公演では関西の主要楽団から名手が集結し、The Symphony Orchestraを編成。その七色の響きを駆使しながら、ソリストたちと織り上げるタンの鮮やかなタクトとともに、ゆく年くる年を晴れやかに祝おう!

なお、今年もロビーでは年末年始の祝賀ムードが満載。金屏風、門松、さらに樽酒まで。素敵な演奏の後は、来場者の皆様に祝い酒が振るまわれるので、こちらもぜひ味わっていただきたい。(文 渡辺謙太郎)

一年の締めくくりと新年の門出を、美しく心浮き立つ音楽で彩る。ウィーンやベルリンをはじめとした海外の音楽都市では、こうした素晴らしい伝統が脈々と受け継がれている。ザ・シンフォニーホールでも約15年前までは行われていたが、その後、長らく途絶えていた年末年始のクラシック演奏会。だが、関西圏でも欧米のように気軽に、本場のステージを味わってみたい!!というテーマのもと、2015年から復活した。今回で4度目となるが、年々、出演者やプログラムが充実。人気を著実に高めていることは周知の通りだろう。管弦楽曲だけでなく声楽やバレエも楽しめる、盛り沢山な内容の当公演。今回も芸術の都・パリから4人の精鋭歌手を招き、モーツァルト「魔笛」の傑作アリア、プッチーニ「誰も寝てはならぬ」ヴェルディ「乾杯の歌」などを華々しく歌い上げる。中でも注目は、2年ぶりの登場となるフィリップ・プロカール。アルメル・オペラ・フェスティヴァル(ハンガリー)のコンクール部門で12年度最優秀男声歌手に輝き、現在はフランス大統領の公式晩餐会にも定期的に出演する若き名歌手だ。そんな彼の当ホールにおける歌唱に期待が高まる。

熱狂再び！新たな歴史に向けて始動



大植英次 指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団 「シェエラザード」 「春の祭典」

大喝采で幕を閉じた大阪フィル70周年×ザ・シンフォニーホール35周年特別コンサート「英雄」&「アルプス交響曲」。
あの熱狂から約1年。今度は、大植英次と大阪フィルが、リムスキー＝コルサコフの交響組曲『シェエラザード』、ストラヴィンスキーの
バレエ音楽『春の祭典』を繰り広げる。春の訪れをまた盛大に彩るであろうこのコンサートについて、大植英次が語る。

ザ・シンフォニーホールならではの
奇跡を感じたコンサート

——今年3月の「大阪フィル70周年
×ザ・シンフォニーホール35周年特別
コンサート」を聴かせていただきま
した。音楽も見事でしたし、お客さま
の盛り上がりも最高だったと思いま
す。大植さんご自身の手応えはいか
がでしたか？

素晴らしいかったですよ。大阪フィル
はとにかく自由自在に動いてくれま
したし、名演だったと思います。『アル
プス交響曲』の最後、僕はきっかり8
秒数えながら手を下ろしました。あ
そこは夕陽が静かに沈んでいく場面
なんです。お客さまもシーンとして
いて、夕陽が消えるまで待つてくだ
さったんですね。そして僕がゆっく
りと振り向くと、どっと拍手が来た
でしょう。もう嬉しかったですね。
ザ・シンフォニーホールならではの奇
跡の時間だと思いました。

——ザ・シンフォニーホールならではの
奇跡の時間？

ただ音がいい、ということだけでは
ないんですよ。それだけではなくて
このホールのサイズと形が素晴らしい
んです。僕ら指揮者はお客さまに
背中を向けているでしょう？ それ
でもこのホールではお客さまの表情
や息遣いがわかるんです。だから僕
はあの8秒をゆっくりと数えつつ、ま
だだ、まだだ、と思いながら手を下ろ
した。お客さまにも夕陽が消えて行
くのが見えていたと思いますよ。あ

なことを言っています。「勝ったから
上がり」ではなく、負けたから終わ
りなのでもない。大切なのは続けて
いく勇気である」と。そしてもし続
けていくとすれば、それは僕と大阪
フィルにしかない「何か」であっ
て、企画はあるのだけど何が飛び出

して来るかはわからない「エンigma」
(謎コンサートシリーズ)でもいう
ようなものになるのが良いと思いま
す。気がついてみたら物凄い歴史が
始まっていた、ということになれば面
白いんじゃないでしょうか笑。

(取材文 逢坂聖也)

気がついたら物凄い歴史が
始まっていた！(笑)

——前はベートーヴェンの交響曲
第3番『英雄』を前半に置くという破
格のプログラムでしたが、来々2月
のステージも大植&大阪フィルの存
在感を打ち出すように大きな管弦楽
がカップリングされています。

僕と大阪フィルの『春の祭典』が聴
きたい、という声を非常に多くいた
だいていて、それならどんな作品と
組み合わせるのがいいだろう？ と
いうところで少し考えたんですね。
そこへ『シェエラザード』というリク
エストが来たので、もうこれしかな
い！これで行こう！と思ったわけ
です。というのはまったくの偶然なん
ですがこの組み合わせは、1998
年、当時ミネソタ管弦楽団の音楽監
督だった僕の、ウィーン楽友協会デ
ビューのプログラムと同じなんです。
その時の喜びが甦って来ますし、自
分としてもチャレンジングな気持ち
で臨んだプログラムをまた振れる機
会が来るとは思っていませんでした
から、今回は思う存分気持ちを込め
て演奏したいと思います。

——とてもファンタジーに溢れたプ

ログラムです。指揮者として考える
聴きどころなどを教えてください。

まず作曲家のリムスキー＝コルサ
コフとストラヴィンスキーは先生と
生徒の関係です。リムスキー＝コル
サコフは19世紀のロシアで、『シェ
エラザード』をはじめとする作品で管
弦楽法を大成させ、ストラヴィンス
キーは20世紀初頭のパリで『春の祭
典』を上演して大センセーションを
巻き起こしました。そしてふたつの
作品にはそれぞれ魅力的なヒロイン
が登場します。生憎の少女とシェエ
ラザードです。ひとりには激しい踊り
に身を任せたあとと神に捧げられる運
命を受け入れ、ひとりとは残酷な王様
に千夜一夜のあいだ一命をかけて物
語を語り続けることで、王様を改心
させて王妃として迎えられる。そ
れらはひよっとすると人間の運命の
話であるかも知れないし、迷信の時
代から智慧の時代に向かう歴史の物
語かもしれない。僕は指揮者ですか
ら、そんなことをたくさん考えなが
らオーケストラを振るわけです。で
もお客さまはぜひご自身の心のまま
に、どうぞ自由に音楽をお楽しみく
ださい。ひとつだけお約束できるの
は僕と大阪フィルでなければできな
い『シェエラザード』と『春の祭典』を
お届けする、ということです。

——シリーズ化も見えて来まし
たね。ザ・シンフォニーホールで大植英
次と大阪フィルの新しい歴史が始ま
りそうです。
ウィンストン・チャーチルがこん

ひとつだけお約束できるのは僕と大阪フィルでなければできない
『シェエラザード』と『春の祭典』をお届けする、ということです。



[指揮] 大植英次
[管弦楽] 大阪フィルハーモニー交響楽団

リムスキー＝コルサコフ：交響組曲「シェエラザード」op.35
ストラヴィンスキー：バレエ音楽「春の祭典」

2019.2/22(金) 7:00PM
S 7,020円 A 5,940円 B 4,860円(税込)
[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催] ザ・シンフォニーホール/公益社団法人大阪フィルハーモニー協会

先行予約:9/20(木) 一般発売:9/23(日)



Interview

ベルリン・フィル公認の室内楽グループ
ソリスト級の腕利き奏者たちによる極上のアンサンブル

Philharmonic Violins Berlin

ベルリン・フィル ヴァイオリン・アンサンブル



世界最高峰のオーケストラ、ベルリン・フィルともなれば、その楽員たちの活動ぶりはオーケストラの枠だけに留まるものではない。なにしろ、ひとりひとりのプレーヤーがソリスト級の超腕利き集団なのだから、メンバーたちは室内楽でも盛んな活動をくりひろげている。ベルリン・フィル木管五重奏団やベルリン・フィル12人のチェリストたちなど、ベルリン・フィルには公認の室内楽グループがいくつもあるが、そのひとつが今回来日するベルリン・フィルヴァイオリン・アンサンブルだ。10名のヴァイオリニストにピアノが加わるユニークな編成になっている。

リーダーを務めるのは第一ヴァイオリンのラウレンティウス・ディンカ。1984年からベルリン・フィルで演奏する古参団員である。名前にピンと来なくとも、顔を見れば「ああ、あの人が」とわかる方が多いのではないだろうか。ベルリン・フィルの伝統を知り尽くしたディンカのもと、ベテランから若

手まで、ベルリン・フィルの名手たちが集まる。アンサンブルの結成は1993年。ドイツはもとより、フランスやスペインなどヨーロッパ各地、さらには南米や日本へのツアーも行なっている。

オーケストラのヴァイオリニストたちだけでアンサンブルを組むというのは珍しい例だろう。ヴァイオリンは主役を務めることの多い高音楽器。弦楽器でアンサンブルを組むとなれば、ヴィオラやチェロなど、内声や低音を担う楽器と組み合わせるのが普通の発想だ。しかし、ディンカの狙いはあくまでもピュアなヴァイオリンのサウンド。ピアノが伴奏を務めるのみで、ベルリン・フィルの奏者たちの卓越した技巧と温かみのあるサウンドを存分に味わってもらおうという意図が込められている。同種の楽器のみでのアンサンブルとなれば、奏者には一段と高い表現力が求められるはず。個々の力量が恐ろしく高いベルリン・フィルだからこそ可能なアンサンブルといってもいいだろう。

ベルリン・フィルヴァイオリン・アンサンブルのレパートリーは多彩だ。今回の公演では、ビゼーの「カルメン」組曲やマスネの「タイスの瞑想曲」、ヴィヴァルディの「四季」より、冬といった、なじみ深い名曲がいくつも演奏される。これらをヴァイオリン・アンサンブルで演奏するとどうなるのか。原曲にはな

い新たな魅力が発見されるかもしれない。
また、ジャンルを超えて愛されるタンゴの巨匠ピアソラの「リベルタンゴ」他の名曲が並ぶのも興味深い。さまざまなアレンジで知られるピアソラ作品だが、ヴァイオリン・アンサンブル版というのはいかに意外性がある。ノールな雰囲気が生まれるのか、それともアグレッシブな音楽になるのか。新鮮な感動がありそう。

(文 飯尾洋二)

【演奏】ベルリン・フィル ヴァイオリン・アンサンブル

ラウレンティウス・ディンカ／ドリアン・ジョージ／アンジェロ・デレオ／マデレーヌ・カルーツォ／アルバロ・パツラ／ベッティーナ・サルトリウス／サンダー・ファークス／アレクサンダー・イヴィッチ／エヴァ＝マリ・アトマシ／シュテファン・シュルツェ／(ピアノ) ジョナサン・オルダー

ヘルベルト・バウマン：バロックの主題の変容／ヴィヴァルディ：四季より「冬」／ショスタコーヴィチ：6つの小品／ピアソラ：組曲 1. オブリビオン(忘却) 2. リベルタンゴ 3. プエノスアイレスの春 (ほか)

2018.10/9 (火) 7:00PM

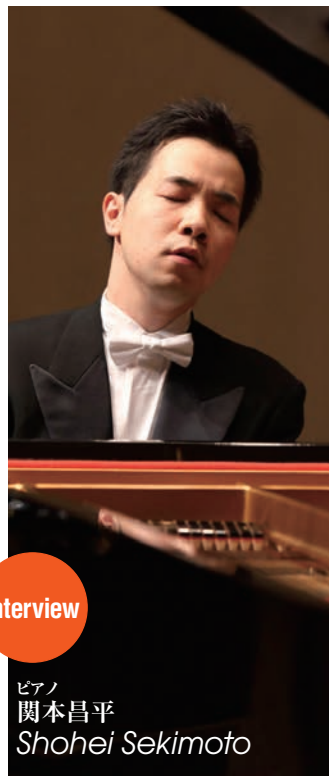
全席指定 3,800円 (税込)

【ご予約】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【お問合せ】日本アーティストチケットセンター 03-5305-4545

【主催】日本アーティスト/ザ・シンフォニーホール

発売中



Interview

ピアノ
関本昌平
Shohei Sekimoto



ヴァイオリン
川久保賜紀
Tamaki Kawakubo
©Yuji Hori



チェロ
横坂 源
Gen Yokosaka
©ワナナーミュージック・ジャパン

3大協奏曲 2019 ～次世代を 担う未来の 巨匠たち～

新春を絢爛豪華に彩る
「3大協奏曲」
ピアニスト関本昌平の
新たなチャレンジ!

ザ・シンフォニーホールの新春を彩る「3大協奏曲」次世代を担う未来の巨匠たち」に登場するピアニスト、関本昌平。彼が演奏するラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》は、数あるピアノ協奏曲のなかでも名曲中の名曲である。

「出だしの鐘の揺れるような音をラフマニノフはソロの曲にも使っています。第1楽章の第1主題の神秘的な雰囲気と雄大さは、ロシアを象徴するような音楽だと思えます。それから彼らしいロマンティックな美しい旋律！そしてそれは、大ピアニストだった彼らしい演奏効果のあるピアニスティックな部分と対照をなしています。オーケストラ・パートも充実していて、ピアノとの掛け合いやデュエットのようなどころ、そしてコンチェルトらしく激しく一緒に演奏する場面もあります」

ラフマニノフは、どんな人だったのだろう？

「ラフマニノフは大柄な人で、身長は1m94cmあったといわれています。作曲家としては、第1番の交響曲が失敗して落ち込んでしまいましたが、その後の第2番のピアノ協奏曲で成功をおさめました。ラフマニノフがこの曲を演奏した際の録音は残っていますが、演奏はとても大胆です」

このコンサートでは、昨年と同じく日本センチュリー交響楽団と共演する。



「これまでも、何度か共演させていただきました。例えばリハーサルの限られた時間に、「こう弾きたい」とアピールすると、オーケストラはとても敏感に反応してくれるので、アンサンブルしやすかったですね」

指揮の山下一史とも過去に舞台を共にした。

「5年以上前になりますが、チャイコフスキーの《ピアノ協奏曲 第1番》をご一緒しました。山下さんはとても熱かった！そのなかにあって、僕の熱い気持ちを汲み取りながら、バランスやその時の状況を瞬時にキャッチしてくださいました」

今回の公演タイトルにある「巨匠」にちなみ、関本にとっての巨匠の条件を聞いてみた。

「さまざまなタイプの巨匠がいます。いるだけでありがたみを覚えるような：例えば舞台上で「ホロヴィッツを聴いた」ではなく、「ホロヴィッツを観た」というような：そうなたら巨匠だと思います」

関本は、中学生時代に初めてザ・シンフォニーホールで演奏し、これま

で何度もその舞台に立っている。

「小さい頃からザ・シンフォニーホールへ足を運び、いろんな人の演奏を客席側から見ていました。そう思うと、責任も感じます。ザ・シンフォニーホールで弾くために、本番へ向けて、精神的にも音楽的にも高めていかなければならない。やはり神聖な場所ですね」

このコンサートへ向けての意気込みも強い。

「ラフマニノフの第2番！33歳にして、この有名な作品に初めて挑みます。私自身もとても楽しみです！」

(取材文 道下京子)

発売中

[チェロ] 横坂 源 [ヴァイオリン] 川久保賜紀 [ピアノ] 関本昌平
[指揮] 山下一史 [管弦楽] 日本センチュリー交響楽団

ハイドン：チェロ協奏曲 第1番 八長調 Hob.VIIb:1
チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.35
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番 八短調 op.18

2019.1/6(日) 2:00PM

S 6,480円 A 5,400円 B 4,320円 (税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

「第3番」にみられる音楽的な飛躍
オーケストラと技巧的ピアノの絡みをたっぷり味わう

日本センチュリー交響楽団×ザ・シンフォニーホール VOL.4

ラフマニノフ & サン＝サーンス 2つの第3番

指揮 **飯森範親** × ピアノ **上原彩子** Interview

撮影協力: (株)ヤマハミュージックジャパン ピアノアーティストサービス東京



日本センチュリー交響楽団とザ・シンフォニーホールがオーケストラの名曲を届ける共同プロジェクト。VOL.4では、第3番の番号が振られた二つの名作を取り上げる。公演でタクトを振る飯森範親は「第3番」の魅力についてこう話す。

「第3番は前作から大きく進化していることが多いので、その飛躍を聴くおもしろい公演になると思います。ラフマニノフのピアノ協奏曲第3番は、第2番の成功の後さらなるものを求めて、やりすぎなほどステップアップしている作品。サン＝サーンスの交響曲は、第1、2番に比べて第3番が有名ですが、これは作曲家が新しいものを生み出そうと、オルガンを入れ、楽章構成をユニークにして完成したものです。今回はザ・シンフォニーホールが誇るパイプオルガンとオーケストラでホール全体を鳴らし、壮大な音楽を届けます」

そんなサン＝サーンスでオルガンを奏するのは、富田一樹。一方、ラフマニノフのソリストを務める上原彩子は、音数の多さ、技巧的な難しさに加え、この協奏曲を弾くには特別な難しさがあるという。

「オーケストラとの絡みがたくさんあると同時に編成が大きいので、室内楽的なものと協奏曲的なものの両表現を意識しなくてはなりません。作曲家がアメリカでの活動を見据えて、自分の力を示す曲を思っ書いて書いたことが伝わってきますね」

(笑) この作品は、指揮者にとっても大変なのだと言います。

「緻密に書かれているので、集中力を切らず、ソリストとオーケストラのコンタクトを保ち続けることが不可欠です。そんな中、ピアノはただ音を並べるだけでも大変なのに、上原さんはオーケストラの楽器の良さをどう引き出すか考えてくれる。こういう方との共演は、僕にとってもオーケストラにとっても財産となります」

二人の初共演は、上原がまだ高校生頃。当時について彼女は「緊張したことが覚えていない」と話すが、飯森のほうは「緊張しているなんて微塵も感じさせず、堂々としてい



【指揮】飯森範親 【ピアノ】上原彩子
【オルガン】富田一樹 【管弦楽】日本センチュリー交響楽団

発売中

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第3番 二短調 op.30
サン＝サーンス:交響曲 第3番 ハ短調「オルガン付き」 op.78

2019.3/21 (木・祝) 2:00PM
S 5,940円 A 4,860円 B 3,780円 (税込)
【ご予約】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
【お問合せ】センチュリーチケットサービス 06-6868-0591
【主催】公益財団法人日本センチュリー交響楽団／ザ・シンフォニーホール

先行予約:9/20(木) 一般発売:9/23(日)

た」と回想する。

「情緒豊かな演奏で、本当に驚きました。あれから年月が経ち母親になられて、演奏が変わりましたね。子育てをしていると、子供が次にどう動こうとしているのか察知して手を差し伸べるようになりますが、それと関係しているのでしょうか。音楽への柔軟性や包容力が増しました」

大阪でラフマニノフの3番を演奏するのは初めてなので、楽しみにしてほしいと上原。一方の飯森は、繊細かつダイナミックなピアノとオーケストラの絡み、終楽章のコーダの盛り上がりなど、作品の醍醐味を味わってほしいとのこと。聴き応えたっぷりの公演となりそうだ。

(取材:文 高坂はる香)

個性的な音楽家たちと音で世界観を分かち合う、
刺激に富んだステージ



Iwao Furusawa

Interview



Philharmonic Virtuosi Berlin

古澤巖× ベルリン・フィルハーモニー ヴィルトゥオージのクリスマス

古澤巖のヴァイオリンと、ベルリン・フィルのメンバーによる弦楽五重奏。贅沢をきわめた音の競演だ。

「彼らと演奏会を開くきっかけは、ベルリン・フィルの12人のヴァイオリンリストの日本公演にソリストとして僕が招かれたこと。そこで知り合ったベルリン・フィルハーモニーヴィルトゥオージのリーダーのディンカさんと『また一緒に何かやろう!』と意気投合しましてね」

その、何かが大当たり。イタリアの作曲家ロベルト・ディ・マリノーが書き上げるコンチェルトは彼らのステージをハイライトとして飾る演出となり、CD録音も継続中だ。

「ディンカさんが新作を委嘱する候補に挙げてくれた作曲家のひとりがマリノーさんでした。曲を弾いてみて、『この人しかない!』と思いましたね。タンゴとクラシックの融合を最大のテーマに掲げているのですが、そんなエモーショナルな表現世界から伝わる、作曲家の人間像にまで直接的に向き合える機会は今の世の中で非常に貴重だと思います。

僕がそうして出会った小品や断章の類から、3楽章形式のコンチェルトに仕立て直されたのが『マリノーのコンチェルト第1番』。続く第2番は旧作のバンドネオン協奏曲からアレンジされたもので、ヴァイオリンだと相当の超絶技巧を要します。これを今回も取り上げるのは……、以前より巧く弾きたいというリベンジみたいなものかな(笑)。第3番にな

ると、マリノーさんも僕のキャラクターを完全に理解して筆を進めたという感じでした。今回初演される第4番も、そうなると思います」

演奏会では、有名な管弦楽作品に基づくマリノーによる編曲版も披露される。期待を誘う聴き物だ。

「オーケストラでコンサートマスターが活躍する『死の舞踏』や『スベイン 奇想曲』を、僕のソロと弦楽五重奏で。これもマリノーさんと意見を交わし、彼がイメージをふくらませやすい曲を選んでもらいました」

共演相手となるのは、世界のトップ・オーケストラに身を置く5人。

「それも全員の個性が強く、国籍にしてもルーマニア、ポーランド、ドイ



発売中

[ヴァイオリン] 古澤巖

[弦楽] ベルリン・フィルハーモニー ヴィルトゥオージ

ロベルト・ディ・マリノー:コンチェルト第2番、第4番(新作)/サン＝サーンス:死の舞踏/リムスキー＝コルサコフ:スペイン奇想曲より/Have Yourself a Merry Little Christmas ほか

2018.12/10(月) 7:00PM

S 6,500円 A 5,000円 (税込)

[ご予約]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ]キョードーインフォメーション 0570-200-888

[主催]NHKブラネット/ザ・シンフォニーホール

ツ……。まさに今のベルリン・フィルの象徴です(笑)。彼らが演奏という共同作業を通じて、凄世界観を打ち出してくる。そして、毎日のように大変な顔ぶれの指揮者と、ありとあらゆる音楽をやっている人たちですから、その経験値や引き出しの多さには圧倒されますね。彼らにとっては僕がよほど刺激的でないと思わないでしょうし、僕は僕で、1年経ってさらに進化した自分を見て欲しいと思います」

（取材・文 木幡一誠）

関西のオペラ歌手が一堂に会する豪華で楽しい歌合戦

関西紅白

オペラ歌合戦

有り得ない贅沢な夢の競演

紅組リーダー
齊藤言子

白組リーダー
田中 勉



Interview

オペラの紅白歌合戦が、世界中のクラシック音楽ファンから愛されてやまないザ・シンフォニーホールで開催される。

紅組と白組、11名ずつ分かれ、計22名が登場。紅組は石崎真弥奈、白組は柴田真郁が指揮台上がり、大阪交響楽団の生演奏とともに、出演者自身が得意とするオペラの名アリアや二重唱を披露する。

紅組代表のソプラノ歌手 齊藤言子は、「出演者にとっても、『12月の暮れに、紅白歌合戦に出るのよ?』と、このイベントに出演することが、若い人たちの目標になり、一つのステータスになるような、そういう演奏会になっていければいいなと感じています」と、公演の意義を語る。

その「ステータス」という言葉通り、関西を代表するベテランや実力派中堅勢、そして世界でも活躍するなど、定着したファンが増えつつある若手までが一堂に会するのだから、その夢のような豪華さは計り知れない。とくに、若いオペラ歌手にとって、一流の舞台に立つことは素晴らしい体験となり、それは関西の音楽業界の発展に繋がっていくだろう。

さらに素晴らしいことは、オール関西の名のもとに、フリーで活躍している人や学生も含め、『関西二期会』『関西芸術振興会』『関西歌劇団』『堺シティオペラ』という関西のオペラ3団体の垣根を超えて出場者が集まったこと。意外にも、関西でこ

うした公演は、これまでほとんどなかった。

白組を代表するバリトン歌手の田中勉は、「私がまだ学生の頃に、小澤征爾さんの指揮で、関西二期会と関西歌劇団と一緒に『トスカ』を上演したことがあります。他団体との共演はそれ以来だと思っています。関西人は、お祭りみたいな催しが好きな気質で、そういう土壤に合った企画ではないでしょうか。とても楽しみにしています」と期待を込めた。

そして、この贅沢な歌の競演の審査には、審査員以外に、客席からも

投票に参加できるというのめ心が弾む。歌唱力や表現力のほか、関西ならではの明るいトーク、華やかな衣裳など、それぞれの視点で投票するのも楽しいのではないだろうか。そんなユニークな一票が集まって、予想できない結果が待ち受けている。

年の瀬、ザ・シンフォニーホールに集まり、みんなで一つになってオペラの名曲を味わえる極上のひととき。素敵な笑顔になって、年を越せること間違いなさだろう。

(文・金子真由)

発売中

紅組

- 北野加織(ソプラノ)
ロッシーニ:歌劇「セヴィリアの理髪師」より 今の歌声は
- 鬼一薫(ソプラノ) 山田愛子(メソソプラノ)
オフエンバック:歌劇「ホフマン物語」より 舟歌(二重唱)
- 畑田弘美(ソプラノ)
ブッチーニ:歌劇「蝶々夫人」より ある晴れた日に
- 荒田祐子(メソソプラノ)
ビゼー:歌劇「カルメン」より 恋は野の鳥(ハバネラ)
- 石橋栄実(ソプラノ)
J.シュトラウス:喜歌劇「こもり」より 公爵様、あなたのようなお方は
- 梨谷桃子(ソプラノ)
ヴェルディ:歌劇「運命の力」より 神よ、平和を与えたまえ
- 木澤佐江子(ソプラノ) 橋 知加子(メソソプラノ)
チレア:歌劇「アドリアーナ・ルクヴール」より 開けてください〜愛していると。ええ、不安と燃え上がる激情で(二重唱)
- 齊藤言子(ソプラノ)
ブッチーニ:歌劇「トスカ」より 歌に生き、恋に生き
- 並河寿美(ソプラノ)
ワーグナー:歌劇「タンホイザー」より 歌の殿堂

白組

- 森 寿美(バリトン)
ロッシーニ:歌劇「セヴィリアの理髪師」より 俺は、街の何でも屋
- 湯浅貴斗(バス)
グリンカ:歌劇「イワン・スサーニン」より ああ、気付かれた
- 清原邦仁(テノール)
ブッチーニ:歌劇「トスカ」より 妙なる調和
- 萩原寛明(バリトン)
ワーグナー:歌劇「タンホイザー」より 星々の歌
- 小餅谷哲男(テノール) 柊貴志(バリトン)
ヴェルディ:歌劇「ドン・カルロ」より われらの胸に友情を(二重唱)
- 村松稔之(カウOUNTERテナー)
モーツァルト:歌劇「フィガロの結婚」より 恋とはどんなものかしら
- 谷 浩一郎(テノール) 西尾岳史(バリトン)
ビゼー:歌劇「真珠採り」より 聖なる神殿の奥深く(二重唱)
- 二塚直紀(テノール)
ヴェルディ:歌劇「リゴレット」より 女心の歌
- 田中 勉(バリトン)
レオンカヴァッロ:歌劇「道化師」より ごめんください、皆様方(プロローグ)

[白組指揮] 柴田真郁 [赤組指揮] 石崎真弥奈 [司会] 羽川英樹

2018.12/29(土) 3:00PM

S 7,020円 A 5,940円 B 4,860円 (税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

[協力] 一般社団法人 大阪交響楽団/公益社団法人 関西二期会

特定非営利活動法人 関西芸術振興会・関西歌劇団/堺シティオペラ一般社団法人

大切な人とともに聴きに来てほしい——
映画音楽からイメージするさまざまな愛の形

Interview

川井郁子 シンフォニック バレンタイン コンサート ～シネマ・ファンタジー～

Ikuko Kawai

ザ・シンフォニーホールでは恒例となったヴァイオリニスト 川井郁子のシンフォニック バレンタインコンサート。今度のテーマは「シネマ・ファンタジー」だ。

「映画の愛のシーンは数知れず、愛の物語も数知れず…映画音楽は、いろんな愛の形を想像していただけるので、バレンタインコンサートにふさわしいと思います」

そんな川井の映画館での思い出は？

「父と初めて一緒に見たのは、『ジョーイ』という映画でした。子どもゆえに、映画を観ながら涙する父にびっくりしたのを覚えています。母と一緒に観た『野ばら』は、母に頼んでもう一回観ました。その映画がきっかけで、ウィーン少年合唱団のファンになったのです」

長く出演しているテレビ番組『100年の音楽』でも映画音楽も数多く演奏してきた。

「映画のなかで流れる音楽を聴くと、その映画を観た時のことやその頃の思い出などを想起させてくれます」
今回のコンサートで演奏される映画音楽は、川井の選りすぐりだ。

「『シンドラーのリスト』を観ていると、冷たさや悲しさ、そして気高さのなかに人間の感情がぐっと凝縮されています。『ウエストサイド・ストーリー』は、最初に観たのが小学生の頃でした。子どもの頃に受ける感動って特別ですね。『ひまわりの約束』は、私の娘がとても好きな曲で、よく

一緒に歌っていました。映画をご覧になっていなくても、音楽から映画に興味を持っていただくのもいいかもしれませんね」

今回共演するハープ奏者朝川朋之は作曲家でもある。また、川井が大阪芸術大学で教えた若手演奏家も弦楽合奏として登場する。

「リハーサルで合わせる前に、彼らだけで曲合わせをしてくれているのです。志が高く、熱心に取り組んでくれます。教え子と音楽のやり取りができる楽しさもありますし、頼もしいですね」

川井の作り上げる音楽舞台は、独特だ。クラシック音楽にとどまらず、シャンソンやタンゴなどの音楽やダンス、演技など、さまざまな要素が複合されている。

「次に表現したいチャレンジがないと、元気がなくなってしまう。新しいことに挑戦し、旅をすると次のことが見えてくる。自分にとってはそれが自然な流れなのです。ミュージカルに負けない音楽舞台を作り上げるのが、ひとつの夢ですね」

ザ・シンフォニーホールの魅力につ



©Shintaro Shiratori / Sony Music Labels, Inc.

[ヴァイオリン] 川井郁子 [ハープ] 朝川朋之 [弦楽] ウエスト弦楽合奏団

J.ウィリアムズ: シンドラーのリスト / S.フェイン: 慕情 / バーンスタイン: 『ウエストサイド・ストーリー』より / R.ロジャース: 『サウンド・オブ・ミュージック』より / 秦基博: ひまわりの約束 / ロータ: ロミオとジュリエット / M.ルグラン: シェルブールの雨傘 / 坂本龍一: ラスト・エンペラー / A.メンゲン: 『アラジン』より / 『A Whole New World』 ほか

2019.2/11(月・祝) 2:00PM

S 5,400円 A 4,320円 (税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] アイケイ・オフィス/ザ・シンフォニーホール

先行予約: 9/20(木) 一般発売: 9/23(日)

いて「会場に一体感があって生の音が気持ちいい！最近では演出の可能性も広がりました」と語る川井。コンサートへの期待感もとても高い。

「アミューズメントパークのように、さまざまな映画やそのヒロインを観ることのできる音楽舞台を創るシリーズだと考えています。映画と同じように思い出に残るような2時間になりたい。お子さまにも耳なじみのあるディズニーの音楽などもありますので、ぜひ大切な人と聴きにきていただきたいですね」

(取材・文 道下京子)



小松英典

Interview



芳村真理

美しき日本のうた「秋の月」

心地よさを感じられる秋の一夜を
明治～大正～昭和の素晴らしき日本歌曲とともに

[バリトン] 小松英典 [ピアノ] 田中悠一郎 [おはなし] 芳村真理

荒城の月／秋の月／かやの木山の／鐘が鳴ります／秋の夜／待ちぼうけ／舟歌／くちなし／さびしいカシの木／しぐれに寄する抒情／松島音頭／落葉松／山の煙／北上夜曲／忘れな草をあなたに／見上げてごらん夜の星を／遠くへ行きたい／川の流れるように／愛のフィナーレ

2018.10/20(土) 7:00PM

全席指定 3,240円(税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

発売中

明治～大正～昭和を通して国民に親しまれてきた日本歌曲を一夜にして楽しめる「美しき日本のうた」。3年目を迎える今回も、バリトン歌手・小松英典を迎えて開催する。

「名月を愛でるこの季節。今回は、秋の月をテーマに、唱歌から国民歌謡、ラジオ歌謡、ポピュラーな歌まで、幅広い年代のお客様にお楽しみいただけるプログラムをお届けします」(小松英典)
毎年大きな反響のあるこの公演。小松は素晴らしい日本歌曲に対する使命感も強い。

「特に『荒城の月』はドイツに渡って40年余りの私が、日本歌曲の頂点であると思っている楽曲です。日本歌曲の素晴らしさを再認識していただき、次の世代の人たちへ歌い継いでいくって欲しいと望んでいます。木のぬくもりと近代的な設備の整った素晴らしいザ・シンフォニーホールで、気持ちよく感性豊かなお客様との一体感を味わえることを楽しみにしています」(小松)

また、今回は「夜のヒットスタジオ」などのパーソナリティーを通して日本歌曲を深く知り尽くした芳村真理を迎え、歌の合間に素敵な音楽のおはなしを展開される。

「『見上げてごらん夜の星を』、『遠くへ行きたい』など、私にとっても思い入れのある曲や小松先生のお歌の魅力が込められた素敵な曲が目白押しです。秋の歌の数々に、ふるさとの自然を、風を、秋の匂いをいっぱい感じたい。私もみなさまと一緒に楽しみたい!!と思っています」(芳村真理)

(文 東條祥恵)

ザ・シンフォニーホール クリスマス オルガンコンサート 2018

厳かな祈りに満ちた、心に届く音色。
今年も売切れ必至!恒例オルガンコンサート。



石丸由佳

©Naoko Nagasawa

[オルガン] 石丸由佳

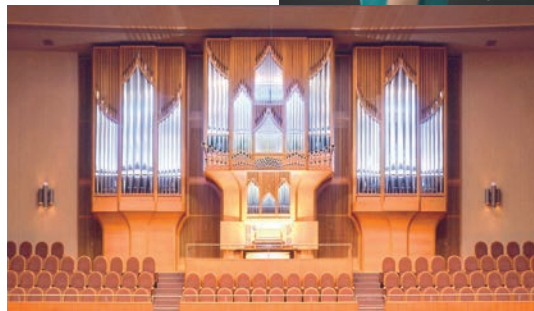
J.S.バッハ: オルガン小曲集より「かくも喜びに満てる日」BWV605/J.S.バッハ、C.グノー: アヴェ・マリア/R. ジャゾット: アタージョ ト短調(アルビノーニのアタージョ)/J.S.バッハ: 目覚めよ、と呼ぶ声ありBWV645/C.M.ワイドホル: 「バッハの思い出」より IV. 夜警の行進(J.S.バッハ「目覚めよ、と呼ぶ声ありBWV645」による)/C.サン＝サーンス: アヴェ・マリア/J.S.バッハ: わが魂は主をあがめ(マニフィカトによるフーガ)BWV733/F.シューベルト: アヴェ・マリア op.52-6,D.839/クリスマス・キャロルメドレー

2018.12/23(日・祝) 7:00PM 全席指定 2,160円(税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

先行予約: 9/20(木) 一般発売: 9/23(日) ※休憩なし、約60分間のコンサートです。



壮麗なパイプオルガンの音色はどんな時に聞いても心を揺さぶってくれる。だがその響きが最も恋しくなる季節、それは十二月ではないだろうか。
ザ・シンフォニーホール恒例のクリスマス・オルガンコンサートは、60分の中に多彩な聞きどころ満載の一夜である。スイスのクーン社製のオルガンは、透明感のある美しい音色が特徴の名器だ。

演奏は、今年の夏に「超絶のスターウオーズ」「超絶のオペラ座の怪人」といったザ・シンフォニーホールの人気シリーズにも出演した石丸由佳。東京藝大、同大学院を経て、デンマーク、ドイツなどで学び、ヨーロッパ各地で演奏会を行う石丸によれば、今回のプログラムは「暗闇に一筋の光が差すような厳かな祈りに満ちたクリスマス・イメーজ」をもとに組んだという。

コンサートはバッハのオルガン小曲集より「かくも喜びに満てる日」、グノー編のバッハ「アヴェ・マリア」で始まる。さらにアルビノーニのアタージョとして知られる名曲、サン＝サーンスとシューベルトの「アヴェ・マリア」など静けさの中に甘美さも備えた曲、そして「クリスマス・キャロルメドレー」といった親しみやすい曲も織り交ぜた選曲になっている。

「教会を訪れてはとひと息つくような気分をコンサートの座席で味わってほしい」と語る石丸。ホール全体が、一年を振り返って新年を迎えるのにふさわしい敬虔な空間へと変貌するにちがいない。

(文 伊藤制子)



大阪交響楽団 0歳児からの 光と映像で楽しむオーケストラ Vol.13

お子様の泣き声も音楽の一部!

0歳児から楽しめるファミリーコンサート

発売中

[指揮] 松井慶太

[歌のお兄さん・お姉さん] 新井 宗平/山本 かずみ [ピアノ] 大淵雅子

外山雄三「管弦楽のためのラプソディ」より「八木節」/ショパン「英雄ポロネーズ」★◆/サン＝サーンス「動物の謝肉祭」より★◆/ガーシュウィン「ラプソディ・イン・ブルー」より◆/(★プロジェクション・マッピングつき ◆ピアノつき)

2018.12/26(水) 午前の部 11:00AM 午後の部 2:00PM

おとな S 2,500円 A 2,000円 B 1,500円 こども S 1,500円 A 1,000円 B 小学生 800円 (税込)

※こども…0歳児から小学生 ※B席は未就学児不可 ※乳幼児のお子様(お膝の上でも)も必ず座席券をご購入ください。

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ] 一般社団法人 大阪交響楽団 072-226-5522

[主催] 一般社団法人 大阪交響楽団/ザ・シンフォニーホール



お母さんとお子様だけでなく、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんファミリー全員が、素敵な音楽空間で温かく幸せな時間を過ごすことができるこのコンサート。大阪交響楽団によるクラシック音楽の生演奏、歌のお兄さん、お姉さんが楽しくリードする、おんがくりズムあそびコーナー、迫力満点のプロジェクション・マッピングなど、充実した内容が毎回好評を得て、今回で13回目を迎えます。

コンサートが始まる前には、歌のお兄さん、お姉さん、そして大阪交響楽団の奏者によるロビーコンサートも開催。毎回大盛り上がりのご様子ものうたの大合唱で、これから始まる本編への期待感を高めます。

本編は約1時間のコンサート。12月26日に開催が決定しているVol. 13は、Vivaraラプソディと題して、ピアノとオーケストラの演奏で、ショパン「英雄ポロネーズ」、テレビ・アニメでもおなじみのガーシュウィン「ラプソディ・イン・ブルー」などの名曲を。サン＝サーンス「動物の謝肉祭」では楽器紹介コーナーも披露されます。

お子様の中には、初めてのコンサートに戸惑い、びっくりに泣いたりする子もいるかもしれませんが、遠慮や気兼ねは必要ありません。このコンサートでは泣き声も音楽の一部。ぜひこの機会にお子様たちに素晴らしいオーケストラサウンドを体感させてみてはいかがでしょう。また、ホールには授乳室、おむつ替え室、ベビーカー置き場を完備しているので、安心して足をお運びください!

「私は、「美は世界を救う」というドストエフスキーの言葉と、音楽の救いの力を信じています。」—— エレーヌ・グリモ

2年ぶりの大阪公演!!



Hélène Grimaud
エレーヌ・グリモー Piano Recital ピアノ・リサイタル

2018年11/12(月)19:00 ザ・シンフォニーホール

シルヴェストロフ: バガテル 第1番

ドビュッシー: アラベスク 第1番

シルヴェストロフ: バガテル 第2番

サティ: グノシエンヌ 第4番

ショパン: ノクターン ホ短調 op. 72-1

サティ: グノシエンヌ 第1番

サティ: 「冷たい小品」から

ゆがんだ踊り 第1番

ドビュッシー: レントより遅く

ショパン: マズルカ イ短調 op. 17-4

ショパン: ワルツ イ短調 op. 34-2

ドビュッシー: 「ベルガマスク組曲」から月の光

ドビュッシー: 夢

サティ: 「冷たい小品」から

ゆがんだ踊り 第2番

ラフマニノフ: ピアノ・ソナタ第2番 変口短調 op. 36

S¥7,000 A¥5,000 B¥3,000

主催: KAJIMOTO



人間がピアノで伝えたい・伝えるべき「原点」がここに。前半は意識の「原点」=記憶がテーマの作品集。後半、彼女のキャリアの「原点」ラフマニノフは、ロシア正教の大伽藍に響き渡る鐘のように我々を圧倒するはず!

チケットのお申込み

www.kajimotoeplus.com

カジモト・イープラス

検索

twitter @kajimoto_News "kajimotomusic"で検索! facebook YouTube @kajimotomusic

●やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございます。●未就学児のご入場はご遠慮いただいております。

カジモト・イープラス 0570-06-9960

※オペレーター対応(10:00~18:00)

ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

三浦一馬



石田泰尚 山田武彦



大坪純平 高橋洋太

三浦一馬キンテート クリスマス・スペシャル・ナイト

新しいレパートリーにも期待!
クリスマスをもっと熱くする古典タンゴ&ピアソラ

[バンドネオン] 三浦一馬 [ヴァイオリン] 石田泰尚 [コントラバス] 高橋洋太
[ピアノ] 山田武彦 [エレキギター] 大坪純平

[1st stage -古典タンゴ-] O.マデルナ: 降る星の如く/G.M.ロドリゲス: ラ・クンバルシータ/
M.モーレス: ウノ/C.ガルデル: ボル・ウナ・カベサ(首の差で)/E.バルカルセ: ラ・ボルドーナ/C.ガ
ルデル: わが懐かしのプエノスアイレス/C.ガルデル: 想いの届く日

[2nd stage -ピアソラ-] アストル・ピアソラ: 92丁目通り/アディオス・ノニーノ/プレバレンセ
(用意はいいか)/キチョ/五重奏のためのコンチェルト/リベルタンゴ

2018.12/14(金) 7:00PM 全席指定 4,000円(税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] テレビマンユニオン/ザ・シンフォニーホール

発売中

「三浦一馬キンテートクリスマス・
スペシャル・ナイト」が、今年もザ・シン
フォニーホールのクリスマスシーズン
を鮮やかに彩る。

曲目は、前半に古典タンゴ、そして後
半にモダン・タンゴの礎を築いたピアソ
ラ作品。つまり、タンゴの変遷をたどつ
てゆくようなプログラムだ。

「この秋には、今まで弾いたことのな
い新しいレパートリーなどたくさん揃
えてツアーも行ないます。このザ・シン
フォニーホールの公演は、ツアーのプロ
グラムから独立した特別な選曲で挑み
ます」と三浦は語る。

そのタンゴのプログラムを、キンテ
ート、つまり五重奏の編成で演奏する。

メンバーは、バンドネオンの三浦のほか
に、彼が「心から信頼している」ヴァイ
オリンの石田泰尚、コントラバスの高橋
洋太、ピアノの山田武彦、そしてエレキ
ギターの大坪純平だ。

「この編成で7〜8年やってきまし
た。例えば、ピアソラ本人の録音を聴
くと、非常にアグレッシヴでエッジが効
いていて、すごく熱いものを随所に感じ
ます。自分なりのピアソラへのアプロ
ーチの仕方や、実際に演奏するうえで5
人の音をどのように作り上げればいい
のか、いよいよ自分のピアソラ像が見
え始めてきました。現在までの完成形
を、ザ・シンフォニーホールで聴いてい
ただけましたら嬉しいですね」

このプログラムは、三浦が最も本領
を発揮できるものに違いない。

「熱い時間をお届けしますので、ぜひ
お越しください!」

(取材・文 道下京子)

プロジェクションマッピング×パイプオルガン 超絶のオペラ座の怪人 リターンズ!!



満員御礼!!
好評につき
再演決定!

[オルガン] 石丸由佳

ミュージカル「オペラ座の怪人」★/ミュージカル「レ・ミゼラブル」★/映画
「オズの魔法使い」より「over the rainbow」/映画「LA LA LAND」
★/映画「サウンド・オブ・ミュージック」/ミュージカル「キャッツ」★/映画
「美女と野獣」★ ほかに(★プロジェクションマッピング付き)

2019.3/27(水) 7:00PM 全席指定 2,700円(税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

先行予約: 9/20(木) 一般発売: 9/23(日)

人気オルガンコンサート、超絶「シリ
ズ」の新企画として8月に開催され、即完
売を記録した「超絶のオペラ座の怪人」。
チケットを取れなかった多くのお客様の
声にお応えして、来春に再演が決定しま
した!

満員の客席を魅了したこのコンサート。
「オペラ座の怪人」をはじめ、「レ・ミゼラ
ブル」、「キャッツ」、「LA LA LAND」
など、世界中で愛され続けているオペラ
やミュージカル、映画音楽の名作をスリリ
ングにお届けします。ザ・シンフォニーホ
ルが誇るパイプオルガンの多彩な音色、
息をのむような壮大さと煌びやかさを
兼ねたプロジェクション・マッピングの光の
オンパレード。まるでザ・シンフォニーホ
ルという大きな船に乗ってオペラ、ミュ
ジカル、映画の名場面を旅するような、
感動と興奮の瞬間が続いていきます。オルガ
ニストは、前回に続いて石丸由佳が登場
します。

4歳以上のお子様からご入場可能。春
休みの素敵な想い出に、是非ファミリーで
お越しください!

ブルーノ=レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル



[ピアノ] ブルーノ=レオナルド・ゲルバー

ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調 op.27-2 《月
光》/ピアノ・ソナタ 第21番 ハ長調 op.53 《ワルトシュタイン》/
シューマン: 謝肉祭 op.9 ほかに

2018.10/14(日) 2:00PM

S 5,400円 A 4,320円(税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

発売中

時には静かに、そして激しい旋律にも
清らかさが漂う。ピアノと一心一体の姿に
は、生き様がみえる。音色にはゲルバーの
想いがあふれ出し、一瞬にして心を揺さ
ぶってくれる。

ゲルバーは、7歳で小児麻痺に罹患す
るが、ベッドでも弾けるようにと両親がピ
アノを改造するなど、大きな支えのもと
不屈の精神と努力で、9歳のときにベー
トーヴェン《ピアノ協奏曲第3番》でデ
ビューを果たした。世界的ピアニストとし
て華々しい活動を展開し、今回が50周年
記念公演となる。

「天国にいる母がいつも傍らにいてく
れ、と感じながらいつもステージに立つてお
ります」と語るゲルバー。生きていること、
そして感謝の気持ち、美しい叙情性を
生み出しているのだろう。今回のプログラ
ムにはピアノ・ソナタ《月光》と《ワルトシュ
タイン》が披露され、他にはシューマン、
ショパンの名作も並ぶ。

「一曲一曲に、全身全霊をもって臨んでま
います。7年ぶりのザ・シンフォニーホール
で、皆様にお目にかかれそうです。とて
も楽しみにしております」(文 金子真由)

The Symphony Hall Produce Program Artist-in-Residence

The Symphony Hall Big Band ~Music Director 菊池寿人~ Vol.13

先行予約
9/20(木)
一般発売
9/23(日)

**ビッグ・バンドと加藤ヒロユキが一緒に「歌う」
オリジナルな編曲で届ける映画音楽**

カラフルな管楽器の音色とパワフルなパフォーマンスで、多くの聴衆を虜にし続けているザ・シンフォニーホール・ビッグ・バンド。今回は、13回目を迎える公演のスペシャルゲストとして登場する加藤ヒロユキにインタビューをした。

加藤はこれまでのザ・シンフォニーホール・ビッグ・バンドとの共演を振り返り、「トランペット、サクソフオン、トロンボーンと、音が声に聴こえてきて、一緒に合唱しているよう」と語る。また、ビッグ・バンドとの出会いによって新たな境地を開いたという。「絢爛豪華な舞台で、これほど魂が揺さぶられた



The Symphony Hall Big Band

ことではないほど、気持ち良くなっています。良かったです」

今回のステージでは、ビッグ・バンドのオリジナル編曲で、映画音楽の数々を演奏する。前半は、ニーノ・ロータ「太陽がいっぱい」、ミシェル・ルグラン「風のささやき」などの演奏を、そして加藤ヒロユキとの共演では、名作映画の歌の世界へとお客さまを誘う。

ミュージカル『キス・ミー・ケイト』の劇中歌『So In Love』は、日曜映画劇場のエンディングテーマで流れていた曲。「テレビ放送当時と同じように、ラフマニノフ風のアレンジでピアノを



Special Guest

加藤ヒロユキ

弾いていただいて、僕はラテンのリズムで歌います。映画『慕情』は、歌劇『蝶々夫人』をモチーフにして作られた映画なので、ブッチーニの『ある晴れた日に』のモチーフを流してから、『慕情』のテーマを歌いたいと思います」。

注目すべきは、美空ひばりの名曲が披露されること。ビッグ・バンドによるアレンジ、そしてどのようなコラボレーションが生まれるのか、とても楽しみだ。

「映画『リンゴ園の少女』で歌われている『津軽のふるさと』は、米山正夫さんという僕の大好きな作曲家の作品です。僕は以前から、この曲を歌謡曲ではなく日本歌曲として捉えています。『リンゴ』とベルカントで張り上げれば日本のアリアです。間奏曲には、映画の主題歌『リンゴ追分』をジャズアレンジで入りたいですね」。

加藤はザ・シンフォニーホールでのステージで、ある場所に立った時、とても声の響くところがあると言う。「ここにはね、音楽のミュージズがいます。舞台の上に」。ミュージズがほほ笑むとき、ホール中に感動の輝きが放たれる。

「お客さまがコンサート後に、にこやかな表情で帰っていただけるのが一番の

Vol.12

2018.
10/30(火)
7:00PM

好評
発売中!!



スペシャルゲスト
本田 雅人
サクソス

本田雅人：THEME FOR B.B.S.
FAIR AFFECTION、MEGALITH
ヘンリー・マンシーニ：酒とバラの日々
Frederick Loewe：ミュージカル『My Fair Lady』より「君住む街角」ほか

¥ 5,400円 A 4,320円 B 3,240円 (税込)

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[お問合せ] 大阪アートエージェンシー 072-648-3852
[主催] ザ・シンフォニーホール

Vol.13

2019.
1/22(火)
7:00PM

スペシャルゲスト
加藤ヒロユキ
テノール

9/20(木)先行
9/23(日)一般

コール・ポーター：So In Love(映画『キス・ミー・ケイト』より)
ブッチーニ：歌劇『蝶々夫人』より「ある晴れた日に」(インスト)
サミー・フェイン：映画『慕情』テーマ
米山正夫：津軽のふるさと～リンゴ追分(インスト)(映画『リンゴ園の少女』より)
クルト・ヴァイル：マック・ザ・ナイフ(映画『三文オペラ』より)
ニーノ・ロータ：太陽がいっぱい
ジュール・マスネ：タイスの瞑想曲
ミシェル・ルグラン：風のささやき ほか

¥ 5,400円 A 4,320円 B 3,240円 (税込)

望み。ビッグ・バンドとともに、お客さまに元気になってもらえるような歌を、精一杯お届けします」。

(取材・文 金子真由)